

## 構想の基本的方向性

---

### 1. 宮城・山形が目指す圏域の将来像

#### (1) 圏域の課題

##### くらしの安全・安心を支える仕組みづくり

少子・高齢化や人口減少が進む中で、未来を担う次世代の育成や安全・安心な生活を確保するためのセーフティネットの構築を図り、住民が日々の生活や将来に対する不安を感じることはない、暮らしやすい地域づくりを進めていく必要があります。

さらに、近い将来の発生が確実視される宮城県沖地震をはじめとする大規模災害等に備え、相互に協力する体制を構築することも重要です。

また、資源やエネルギー制約の高まりや地球温暖化などの環境問題が深刻化するなか、これまでの社会経済のあり方や個人個人のライフスタイルの見直しが求められており、住民の生活の基盤となる自然環境を良好な状態で次世代に引き継ぐとともに、住民の日常生活や企業活動を通じて、持続可能な社会経済の形成に向けた新しい価値観によるライフスタイルを創造していく必要があります。

こうした様々な不安や制約を乗り越え、誰もが安心して質の高い暮らしを営む圏域を形成するためには、そこに生きる人々の多様な能力発揮が不可欠です。

これからの圏域づくりの源泉である人材の力を高め、能力が存分に発揮できる環境を整えていくことが何よりも重要です。

##### 強い産業経済の確立

社会経済のグローバル化が進展し国内外との競争が厳しさを増していく中で、圏域の活力を維持・向上させていくためには、産業経済の競争力を高め、優位性を確立していくことが重要です。

そのため、東アジアをはじめ世界においても明確な存在感を示し得る強い経済力と自律性の高い産業構造を確立するとともに、多様なビジネスの創出を通じて圏域内における就労機会の確保に結び付けていく必要があります。

##### 国内外とのさらなる交流促進に向けた基盤整備及び拠点機能の強化

人口減少に伴い地域社会の活力減退が懸念されるなか、圏域内外との交流を促進することがこれまで以上に重要です。

そのため、太平洋と日本海に面している圏域の多様で個性豊かな地域資源を存分に活用し、その魅力を広く発信し、国内外における認知度を高めていく必要があります。

また、交流を支える交通ネットワークの整備や、東北全体の交流拠点としての機能の強化・向上などに積極的に取り組む必要があります。

## (2) 圏域発展のポテンシャル

### 多様性を尊重しながら一体化する圏域

本圏域は、政令指定都市である仙台市と特例市である山形市が奥羽山脈を挟んで隣接しているほか、歴史的・文化的なまとまりのある中小都市と周辺地域による生活圏がバランスよく配置された多極分散型の特色ある圏域をかたちづくっています。

圏域内では、それぞれの風土のもと特色のある文化がはぐくまれており、近年、両県間の交流が急激に拡大し、生活・経済面での圏域の一体化が進むなかにあっても、相互の個性ある文化を尊重し、まとまりの中に多様性が生きる圏域として発展しています。

こうした多様で特色ある文化が息づく本圏域においては、都市と農山漁村それぞれの魅力を一体的に享受することが可能であり、豊かな自然や温泉、多様な食文化などの魅力とも相まって、最近ではスローライフなど多様なライフスタイルが展開できる地域として注目を集めています。

### 共生と互助・互惠の精神が根付く圏域

圏域内では、多様な文化が現代に息づいているとともに、自然の恩恵だけではなくその厳しさをも受け入れていた縄文時代から受け継がれた東北ならではの精神風土が根付いています。

また、全国的に都市化が進み、地域社会における人と人との関係が希薄になるなかにあって、本圏域では、かつての農村での共同作業などを母体として現在まで引き継がれてきた地域コミュニティのつながりなど、互助・互惠の精神が現在においても大切にされています。

こうした圏域に根付く精神風土は、人と環境との新たな関係づくりや人口減少社会における地域社会の活性化など、時代の波を前向きに乗り越えていくための大きな力となるものです。

### 食の魅力が生きる圏域

豊かな自然や冷涼な気候、太平洋と日本海という2つの海に面した地理的特性は、四季折々の農産物や畜産物、特色ある水産物など多彩な農林水産品を生み出しています。

それらは、国内食料の供給・確保を支える第一次産業の基盤を形成するに止まらず、質の高い食材を活かした特色ある食文化や食関連産業の発展を支え、食の一大拠点としての魅力に結びついています。

経済成長が著しい東アジア諸国・地域が新しい市場としてこれから大きく拡大していく中で、圏域の食の魅力は、我が国のみならず、東アジア諸国の人々をも惹きつけるものと期待されています。

## 新たな価値を創造する産業シーズが根付く圏域

圏域には、東北大学金属材料研究所の研究成果を活かした材料加工系の先端産業や水産加工品を中心とした食品製造業、米沢織物や山形鋳物などの伝統産業を基に発達してきた機械加工業や農産加工を中心とした食品加工業、家具製作業、繊維産業など、高い技術力を持つ伝統的な地場産業が形づくられています。

また、最近では、東北大学の機械・電子・電機や医療分野での先端的な技術、山形大学の高分子関連技術、東北芸術工科大学のコンテンツ・デザイン技術、慶應義塾大学先端生命科学研究所のバイオ関連技術など世界に冠たる事業化シーズが次々と生み出されています。

こうした伝統的な地場産業や先進的な事業化シーズは、新たな価値を創造するための基盤となり、東北全体の経済発展を牽引する原動力となることが期待されています。

## 内外を惹きつける魅力ある資源を活かす圏域

圏域においては、約400年前に、米沢に生まれ仙台を興した伊達政宗が、欧州との交流などを通じて世界を展望し、江戸時代には、東廻り航路、西廻り航路の重要な寄港地となった酒田や東廻り航路随一の拠点港となった石巻などで上方や江戸との交易が盛んに行われるなど、内外との交流を重視し、交流を通じて独自の文化を開花させてきました。

最近では、雪や温泉、多様で奥行きのある文化などを求めて、台湾、韓国をはじめ東アジア諸国・地域から毎年、多くの人々が本圏域を訪れ、地域との新たな交流が生まれ始めています。

これまでの多様な交流により創出された文化的、歴史的資源は、自然や地理的特性が生み出す多種多様な資源とともに、体験、癒し、健康など新たな観光ニーズにも対応し、圏域内外から人を惹きつける魅力を持っています。

## 東北の中核機能の集積が進む圏域

圏域には、県都が隣接する仙台・山形都市圏を中心に、学術研究、国際交流、産業経済、高次医療・サービス等の拠点機能の集積が進んでいます。

近年の交通基盤の整備などを背景に、住民の生活や産業活動空間は拡大傾向にあり、こうした拠点機能の県境を越えた利活用が活発化しています。

行政の広域化や地方分権が進展する一方、これまで以上の財政制約の強まりが見込まれるなかで、本圏域が、地域の自律的な発展を目指して、圏域内のみならず東北全体としてその中核機能を形成し、共有するとともに、東北全体の発展を牽引する役割を果たしていくことが期待されています。

### (3) 目指す圏域の将来像

宮城・山形両県の連携により目指す圏域の将来像を次のとおり示します。

< 目指す圏域の将来像 >

## 未来を拓く東北の中核圏域「宮城・山形」の形成

宮城・山形両県が持つ輝く個性をお互いに尊重しつつ、圏域の多様な資源を共有し、それらの融合や相乗により無限の可能性を活かしながら新しい価値の創出を図り、未来に向けて新たに国内外に誇りうる活力と魅力にあふれた東北の中核圏域の形成を目指します。

両県の特色ある魅力が共有され、それらの補完・相乗による効果が最大限に発揮されて、以下のように多面的に発展する圏域がかたちづくられています。

美しい自然や豊かな風土、個性的な文化や多様な農林水産物や海・山・大地の恵みを存分に享受でき、安全・安心で質の高い暮らしが確保された地域社会が形成されています。

高い技術力を有する伝統産業・地場産業の高付加価値化、高度な学術研究機能や知的財産の活用、さらには公設試験研究機関や民間との連携による基盤技術の高度化や先端技術の定着などにより、競争力のある地域産業の振興・集積が進んでいます。

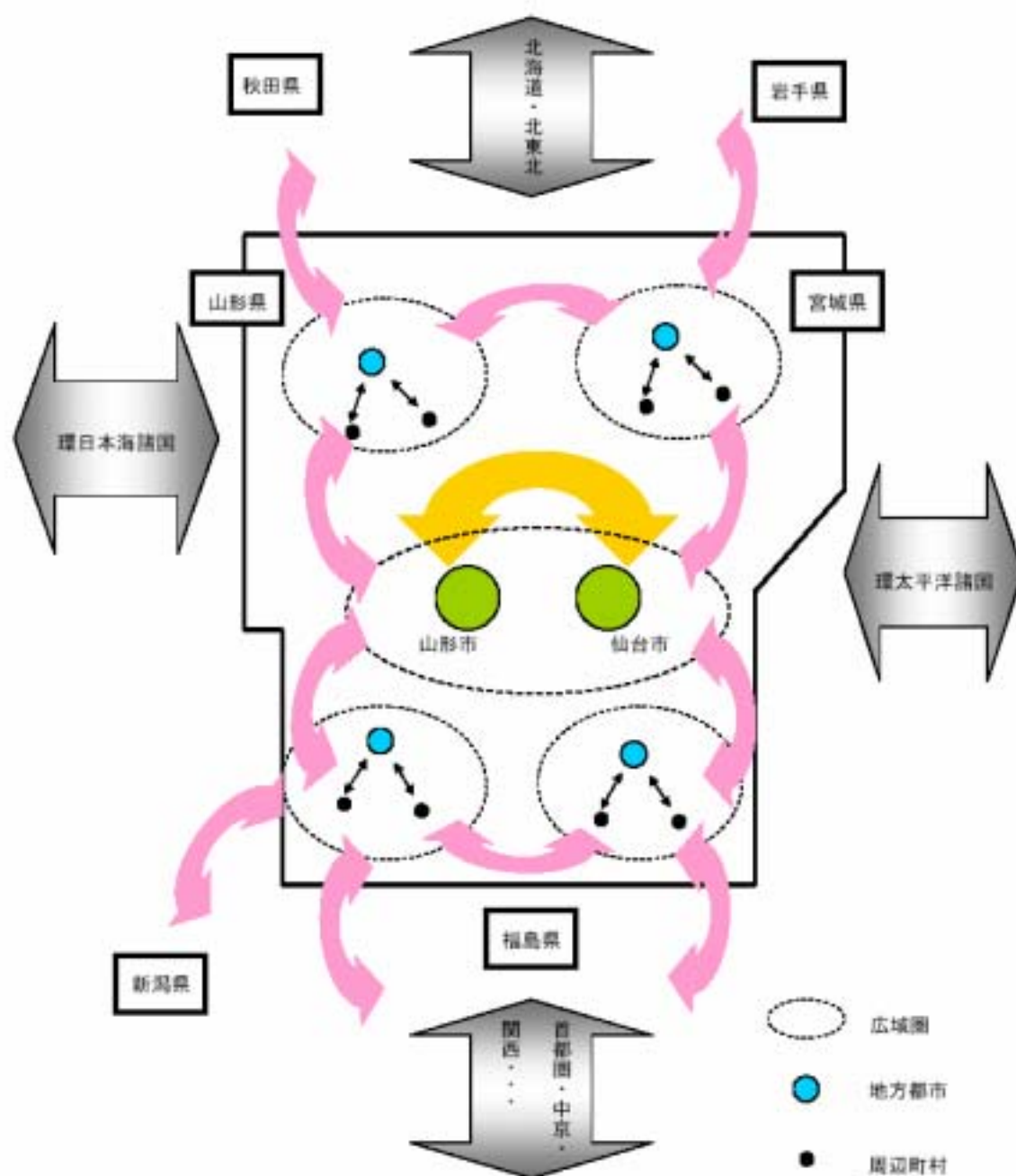
太平洋と日本海に面し、2つの海が約150kmという近距離で結ばれている圏域の特性を存分に活かし、両県の異なる魅力を共有し、それらの補完・相乗による効果を最大限に発揮するとともに、歴史や伝統ある文化・技を尊重しながら、さらに新しい感性との融合による新たな価値創造に取り組む地域が形成されています。

高度な学術研究機能、国際交流機能、産業支援機能等が集積している仙台・山形都市圏が圏域の中核地域としてその機能を最大限に発揮しています。また、圏域内においては、都市部と農山漁村との交流が進むとともに、中核地域である仙台・山形都市圏の資源を積極的に活用しながら、それぞれの地域特性を活かした自律的で独自性に富んだ地域づくりが進んでいます。

東北各県等との連携や国内及び東アジアをはじめとする海外との交流を通じた広域的なネットワークの形成によるスケールメリットを発揮し、国内外で確固たる存在感を示し、世界に開かれた東北の中核圏域として東北全体の発展を牽引しています。

以上を踏まえ、宮城・山形両県の連携により目指す圏域の将来像としては、宮城・山形両県が持つ輝く個性を相互に尊重しつつ、圏域の多様な資源を共有し、それらの融合や相乗により無限の可能性を活かしながら新しい価値の創出を図り、未来に向けて新たに国内外に誇りうる活力と魅力にあふれた東北の中核圏域の形成を目指すものとします。

<交流イメージ>



## 2. 圏域形成の基本方向

宮城・山形両県は連携して以下の圏域づくりに取り組みます。

### (1) 広域環境・生活圏の形成 ～安全・安心な質の高い生活を共有する～

安全・安心な生活の基盤となる保健，医療，福祉，防災などの広域的な取組を進めるとともに，環境との調和や資源の循環を共通の価値基準とする新たな地域社会のかたちを具現化し，持続可能な社会経済の形成に向けたあるべきライフスタイルを広く内外に発信し続ける「広域環境・生活圏」を形成します。

#### 環境と調和する圏域づくり

陸中海岸，磐梯朝日の2つの国立公園，南三陸金華山，蔵王，栗駒，鳥海の4つの国定公園や県立自然公園，ラムサール条約湿地である伊豆沼・内沼や蕪栗沼・周辺水田，北上川・阿武隈川・最上川などの雄大な河川など圏域内の豊かな自然環境，澄んだ空気や清浄な水をはじめとした良好な生活環境は，圏域内住民の暮らしの安心と充実を支える基盤となり，生活の質の向上に寄与します。

環境の世紀において全国・世界のモデルともなり得る，環境との調和と循環を基調とした社会を築くための取組を共同で進めていきます。

#### 互助・互恵が息づく安全・安心な圏域づくり

少子・高齢化が進展する中で，社会全体で子育てを支援する機運を醸成するとともに，学校，家庭，地域，職場，専門機関の連携を進めることにより，安心して子どもを育てることができ，未来を担う子どもたちが健やかに成長できる環境づくりを進めていきます。

また，高齢者や障害者を含む誰もが不便を感じずに，生きがいをもって暮らすことができる地域づくりを目指すとともに，宮城県立こども病院の活用等，相互の機能分担や補完による高度で専門的な医療の充実や救急医療における連携体制の整備を図っていきます。

安全・安心な生活の確保に向けて，日頃から相互の信頼関係を築きながら，県境を越えた連携・協力を進めます。特に，近い将来の発生が確実視される宮城県沖地震をはじめとした大規模災害等に備えた平時からの相互協力体制の充実を図っていきます。

#### 人材の力が発揮される圏域づくり

人口減少下においても活力にあふれる圏域づくりを進めていくため，行政・住民・NPOなど多様な主体による協働を進めるとともに，女性・若者・高齢者・障がい者，在住外国人など誰もがその能力を十分に発揮できる環境づくりに共同で取り組んでいきます。

## (2) 広域経済圏の形成 ~新しい価値を共に創り、発信する~

県境を越えた産学官連携や異業種連携による競争力のある産業の創出・育成、海外との経済交流に積極的に取り組み、グローバル化が進展する中であっても自律的に発展し、東北地方全体の経済活性化を牽引する「広域経済圏」を形成します。

### 圏域の資源や伝承の技を活かす自律内発型産業の振興

圏域において幾代にもわたり培ってきた農の技と豊穡の大地にはぐくまれた米や果物など高品質な農産物や、それらを活かした日本酒やワインなどの醸造品、各種農産加工品、銘柄牛・銘柄豚などの畜産物、太平洋側と日本海側それぞれの特色ある水産物などは、国内はもとより海外においても人々を魅了するものです。

両県の産品等のブランド力を活用し、物産展・展示会等の共同開催・共同参加などを通して国内外に向けた新たな販売ルートの確立を図っていきます。

宮城県については東北大学金属材料研究所の研究成果を活かした材料加工系の先端産業や水産加工品を中心とした食品製造業、山形県については米沢織物や山形鋳物などの伝統産業を基に発達してきた機械加工業や農産加工を中心とした食品加工業、家具製作業、繊維産業など、高い技術力を持つ伝統的な地場産業の振興を図ります。

特に、圏域の伝統的な産業に息づくものづくりの匠の技と現代的デザインとの融合による新たな価値創出など、多様化する市場や消費者のニーズに呼応したより付加価値が高く独創性あふれる商品・サービスの創出・発信を重視して、地域に根付いた産業の活性化に取り組みます。

### 東北地域全体の産業発展を牽引する広域的な産業集積の促進

仙台市、石巻市、山形市、鶴岡市、米沢市などを中心とした高次の学術研究機能、産業、国際交流基盤の集積や地域資源を両県で共有し、独創的な研究開発や新産業の創出、産業の高度化、市場の開拓、産業を支える人材の育成などの取組に活用していきます。

特に、食品製造業や電機・電子部品製造業など両県の主要な産業集積や、東北芸術工科大学のコンテンツ・デザイン技術、慶應義塾大学先端生命科学研究所のバイオ関連技術、東北大学の金属・機械・電子・電機や医療分野の先端技術、山形大学の高分子関連技術など、圏域内の事業化シーズの相互活用を推進し、国内外との競争の中で優位性を発揮しうる広域的な産業の集積に連携して取り組んでいきます。

さらに、圏域のみならず、東北の他地域との広域的な連携を積極的に進め、圏域の産業ポテンシャルを東北全体の産業発展へと結びつけます。

## 国内外を魅了する独創的な価値の発信

圏域内で生み出された独創的で高品質な製品・産品を広く国内外に発信し、「食材王国みやぎ」、「おいしいみやぎ」や「おいしい山形」、「山形セレクション」などのお互いのブランド力を活かしながら、東北各県等との連携によるスケールメリットを発揮し、国内外における新たな市場開拓と販路拡大を進め、市場の拡大を図っていきます。

また、圏域内の企業の海外展開や海外取引の拡大を図るとともに、高度の知的集積など圏域の産業シーズを積極的にアピールし、海外の研究開発型企业等の対内直接投資を促進していきます。



### (3) 広域交流圏の形成 ~ 太平洋と日本海に面した圏域の特性を活かす ~

太平洋と日本海に面し、豊かな自然・風土や歴史・文化、食材等の豊富で良質な資源に恵まれた圏域の強みを活かし、さまざまな分野で圏域内外の交流を促進するとともに、仙台都市圏に集積する高次の都市機能の広域活用などを通じて世界に飛躍する東北地方の拠点として備えるべき機能を強化し、国内外から広く人・モノ・情報を呼び込む「広域交流圏」を形成します。

#### 圏域の特性や資源を活かした交流人口の拡大

日本海側と太平洋側の2つの海に面している本圏域には、特色ある風土、雄大な河川や山岳、文化性に溢れた中小の都市や農山漁村、四季折々の農林水産物とそれらを活かした特色ある食文化など多様で魅力的な資源が数多く存在しています。

また、仙台七夕や新庄まつりなど古来受け継がれてきた祭りや習俗などの伝統文化や、定禅寺ストリートジャズフェスティバル、山形国際ドキュメンタリー映画祭などに代表される現代的な音楽・文化イベント、松尾芭蕉の「奥の細道」に代表されるような歴史・文化的な資源や、イザベラ・バードにより「東洋のアルカディア(桃源郷)」と称された置賜地域の田園風景など、魅力的で特色のある文化的風土が形成されています。

こうした多様多彩な圏域の資源を活用し、仙台都市圏から庄内地域に至る太平洋と日本海を結ぶ新たな文化観光軸の一体的形成などの取組みを通じ、国内外の人々を魅了し、惹きつけ、多様な交流が展開する圏域づくりを進めます。

特に、高い経済成長を背景に交流が拡大している東アジア地域をターゲットとする観光交流、団塊の世代の生活・行動様式や体験型・長期滞在型観光など多様化する旅行スタイルやニーズに対応した観光交流、東北の中核圏域としての国際交流機能・高次学術研究機能等を活かしたビジネス交流などに積極的に取り組み、圏域内外との交流人口を拡大します。

#### 世界に飛躍する東北の中核拠点としての交流基盤や機能の形成・活用

圏域内の各地域は、東北横断自動車道酒田線と5本の一般国道、仙山線や陸羽東線といった交通網で結ばれており、両県の地域資源を相互に活用しやすい環境が整っています。

太平洋側には特定重要港湾仙台塩釜港及び重要港湾石巻港、日本海側には重要港湾酒田港が整備されており、それぞれ環太平洋諸国及び環日本海諸国との交流拠点となっているほか、仙台・山形・庄内の3つの空港が存在しており、特に、仙台空港については、東北の空の玄関として、宮城・山形両県のみならず東北全体における国際交流拠点としての機能を有しています。

このような両県間及び国内外との交流基盤について、東北全体の発展や海外との交流拠点として果たすべき役割を考慮しながら、継続的に整備・機能強化に取り組んでいきます。

また、交流基盤の整備を通じて、多様な地域資源・基盤施設等の広域的なネットワークをかたちづくり、観光・文化・スポーツをはじめとした様々な分野において、圏域内及び国内外との交流を積極的に展開し、両県地域の活性化に結びつけます。

さらには、国際交流拠点機能、高度な学術研究機能、産業支援拠点機能、高次医療・サービス機能などの圏域内における効果的かつ効率的な整備及び利活用を促進するとともに、仙台都市圏に集積する高次都市機能の広域活用を進め、東北の中核圏域として求められる都市的機能の強化・拡充に取り組みます。

#### 圏域としての一体感の醸成

生活や産業、内外との交流などあらゆる分野において、圏域の発展のポテンシャルを十分に発揮していくためには、これまでの県単位の発想を脱却し、東北全体、特にその中核圏域たる本圏域において、行政はもとより住民、企業、NPOなど多様な主体が一体感をもって、連携・協働の取組を進めていくことが大切です。

隣接地域間の日常的な交流など多様な連携・交流を通じて両県民の相互理解を深め、圏域のさらなる発展に結びつけていくために、様々な機会をとらえ圏域としての一体感を醸成します。

【宮城・山形が目指す圏域形成のイメージ】

